

登録コード	J5400300	開講年度	2026				
授業科目	経営史、ビジネス・システム論					担当教員	橋本 規之
英文授業名	Business History and Management Theories on Business System					副担当	
単位数	4	講義期間	通年	曜日・時限	木曜・2時限 木曜・3時限	対象学年	(20カリ対象科目) 経：3年
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンベンション	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					⇔	【授業の達成目標】
	経法20初						
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。					⇔	経営学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけるために、イノベーションとマネジメント（あるいはビジネスと経営者）を軸に、経営史の流れと要点を理解できるようになる。
	社会資源の制約のなかで解決方法を創りだす能力、多様な価値観の中で対立を回避する危機管理能力を応用力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。					⇔	社会資源の制約のなかで解決方法を創りだす能力を身につけるために、ビジネス活動を系統的に捉えることで、顧客価値を創造する事業の仕組みと組織のマネジメントのあり方を理解できるようになる。
	経法20初・応用経済						
	環境問題、少子高齢化、自然・経済リスクの管理、コーポレート・ガバナンス等の法制度がかかわる問題などについて、現実					⇔	経営学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につけるために、経営史の流れと要点を把握できるようになり、また
	に解決を探る際には、法学、さらには、理学・工学・医学等の関連領域との協力が必要となる。このために、関連する分野の考え方を正しく理解して経済学的分析手法との相違を把握し、経済学の知見を、柔軟にまた建設的に応用できる能力を身につける。						ビジネス活動を系統的に捉えることで、顧客価値を創造する事業の仕組みと組織のマネジメントのあり方を理解できるようになる。
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	前期（木・2限）に「経営史」の講義を行い、後期（木・3限）に「ビジネス・システム論」の講義を行います。 【経営史】 18世紀の産業革命の時代から、21世紀の現在までを対象にして、ヨーロッパ、アメリカ、日本、アジア地域におけるビジネスとマネジメントの歴史を概観します。 各時期の政治・経済・社会・文化を踏まえて、市場環境への創造的な適応であるイノベーションの視点から、経営史を繙いていきます。 第1回～第8回は、ヨーロッパとアメリカの経営史を扱います。 第9回～第15回は、日本とアジアの経営史をとりあげます。 【ビジネス・システム論】 本授業では、ビジネス・システム論のアプローチを学習します。 第1回～第5回では、最初に市場・組織・中間組織という視点からビジネス・システムを理解します。具体的な事例では、日本の経営とファミリービジネスをとりあげて、企業統治とマネジメントの特徴を考察します。また、ここではネットワークの視点を導入して、個人や組織の関係性を捉えていきます。 第6回～第15回では、イノベーションと顧客価値を生み出す視点から、様々なビジネス・システムの事例を取り扱います。各種の理論・分析概念と、ビジネスの実例との往復を通じて、価値の創造と獲得を可能にする事業の仕掛けと活動体系のマネジメントについて理解を深めていきます。						
(5)授業計画	【経営史】 第1回 イギリス産業革命の時代（1） 第2回 イギリス産業革命の時代（2） 第3回 アメリカ資本主義の誕生（1） 第4回 アメリカ資本主義の誕生（2） 第5回 大企業体制とチャンドラー経営史 第6回 20世紀前半の欧米ビジネス 第7回 20世紀後半の欧米ビジネス 第8回 現代（1990年代以降）の欧米ビジネス 第9回 明治期の工業化と企業家 第10回 財閥の時代（起源として江戸時代の商家経営も扱う） 第11回 大正期の都市化と電化 第12回 戦後復興期の政府と企業 第13回 高度成長期の企業家活動 第14回 日本の経営の時代 第15回 台頭するアジア企業						

(5)授業計画	第15回の最後に、授業アンケートを実施します。 【ビジネス・システム論】 第1回 ビジネス・システムとは何か 第2回 企業統治とステイクホルダー 第3回 ファミリービジネスのマネジメント 第4回 ネットワークの理論と応用 第5回 ネットワーク資本のマネジメント 第6回 イノベーションのマネジメント 第7回 ビジネス・システムと組織能力 第8回 コア・コンピタンスと事業戦略 第9回 顧客・価値の創造と事業戦略 第10回 イノベーションを生むビジネス・システム 第11回 大量生産と大量流通のイノベーション 第12回 文化・コンテンツとビジネス・システム 第13回 製品アーキテクチャと競争戦略 第14回 デザインルールと組織アーキテクチャ 第15回 ビジネス・エコシステムのマネジメント 第15回の最後に、授業アンケートを実施します。
(6)成績評価の方法	【経営史】 成績の評価は、中間試験と期末試験で行います。 中間試験は、eALPSを通じて行います。第8回終了後、1週間以内に受験してください。 期末試験は、期末試験期間中に、教室で行います。 中間試験の得点（100点満点）と期末試験の得点（100点満点）を合計した点数を2で割って、小数点以下を切り上げた点数が、経営史の得点となります。 【ビジネス・システム論】 成績の評価は、中間試験と期末レポートで行います。 中間試験は、eALPSを通じて行います。第8回終了後、1週間以内に受験してください。 期末レポートの課題、分量、提出期限などの詳細については、第12回の講義でお知らせします。 中間試験の得点（100点満点）と期末レポートの得点（100点満点）を合計した点数を2で割って、小数点以下を切り上げた点数が、ビジネス・システム論の得点となります。 【成績評価】 最終的に、経営史の得点（100点満点）とビジネス・システム論の得点（100点満点）を合計した点数を2で割って、小数点以下を切り上げた点数が、成績評価の得点となります。
(7)成績評価の基準	【成績評価】の得点に基づき、次のような成績評価となります。 秀（90点～100点）：授業の理解度が「卓越している」 優（80点～89点）：授業の理解度が「かなり上にある」 良（70点～79点）：授業の理解度が「やや上にある」 可（60点～69点）：授業の理解度が「合格水準にある」 不可（60点未満）：授業の理解度が「合格水準に達していない」
(8)事前事後学習の内容	初回の授業で紹介する参考書は、事前の予習にも活用することができます。事後の学習では、講義資料をよく復習することが肝心です。各スライドの脚注や末尾の参考文献リストを復習や発展的な学習として利用してください。
(9)履修上の注意	授業で使うパワーポイント教材（PDF）は、原則、授業の前日に配布します。履修登録者の電子メールのアドレスが判明するまでは、eALPSに掲載します。判明後は、履修登録者に直接送信します。授業中に書き込みやメモがとれるように印刷などしておくとう便利でしょう。
(10)質問、相談への対応	授業後の教室、電子メール、zoom、研究室での面談（事前に予約のこと）で対応します。メール・アドレス：nhashimo@shinshu-u.ac.jp
【教科書】	毎回配布するパワーポイント教材が、事実上の教科書になります。
【参考書】	授業全体に関する参考書については、初回の授業で説明・紹介します。また、テーマ別・トピック別の参考書は、各回の授業の参考文献リストの形で紹介しています。